

「遠くて遠い知らない国」から「遠くて近い身近な国」へ 中央アジア5か国へ文化交流ミッションを派遣 第1弾:8月2日～5日ウズベキスタン

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)では、2015年10月の安倍晋三総理大臣による中央アジア諸国歴訪を受け、中央アジアを「重点地域」の一つと位置づけ、この地域との交流深化に力を注ぎ、現在幅広い分野の文化交流事業を集中的に企画・実施しています。

この一環として、畠信彦 日本ウズベキスタン協会会長を団長とし、様々な分野の専門家・有識者で構成される文化交流使節団「中央アジア文化交流ミッション」を、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタンの5か国に派遣する予定です。中央アジアの文化・社会事情を視察するとともに、有識者等との意見・情報交換を行う機会をつくり、今後日本-中央アジア関係をさらに深め発展させていくには、どのような交流事業を進めていくべきかを考察します。

■文化交流使節団「中央アジア文化交流ミッション」概要

【派遣国】 中央アジア5か国 (ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン)

【スケジュール】 第1弾:2016年8月2日～5日 ウズベキスタン (他4か国向け第2弾、第3弾は調整中)

【メンバー】 (計8名、敬称略、団長を除き五十音順)

畠 信彦 (団長/ジャーナリスト、日本ウズベキスタン協会会長)

安藤 裕康 (国際交流基金理事長)

河東 哲夫 (Japan and World Trends 代表、元駐ウズベキスタン大使)

コシノ ジュンコ (デザイナー)

小松 久男 (東京大学名誉教授、東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授)

中山 恭子 (参議院議員、元駐ウズベキスタン大使)

西原 鈴子 (国際交流基金日本語国際センター所長)

矢内 廣 (ぴあ株式会社代表取締役社長) 【※ 第1弾(ウズベキスタン)は都合により不参加】

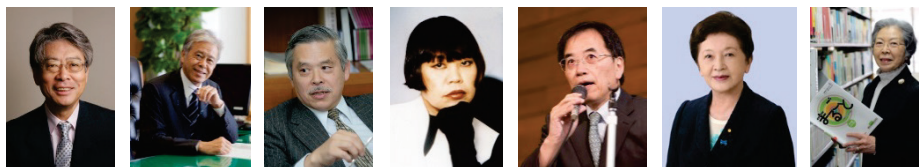


写真:高木あつ子

写真:相川健一

※写真は、第1弾(ウズベキスタン)参加ミッション・メンバー:左から、畠団長、続けて、安藤、河東、コシノ、小松、中山、西原 各団員

中央アジアは、天然資源が豊富で、ユーラシア大陸の中心に位置するイスラム圏として地政学的な重要性も非常に高く、今世界が注目している地域です。世論調査の結果では中央アジアの人々の日本に対する好感度は大変高く、また日本でもロマン溢れるシルクロードの国々に憧れを抱く人が多くいると言われる一方で、お互いについての具体的な知識や情報は少ないのが現状です。こうした状況を踏まえ、国際交流基金では、集中的に多岐にわたる文化交流事業を実施することを通じ、相手に対する漠然とした好印象を、偏りない知識に裏付けされた確かな相互理解に繋げ、また共通の課題に共同で取り組むことで価値観の共有を確認し合い、「遠くて遠い国々」を「遠くて近い国々」にしていくことを目指します。

●主催者・本事業に関するお問い合わせ:国際交流基金 企画部 事業戦略課 (担当:金子、大内)

Tel: 03-5369-6058 / E-mail: Miwa_Kaneko@jpf.go.jp, Momoko_Ouchi@jpf.go.jp

●取材に関するお問い合わせ: コミュニケーションセンター(担当:川久保、森)

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp

<別紙-1>

文化交流使節団「中央アジア文化交流ミッション」

第1弾派遣:ウズベキスタン

文化交流ミッションのウズベキスタン訪問中には、ウズベキスタン側の有識者・文化人たちとの会議に加え、日本語を学んだ経験があり、今後日本とウズベキスタンの連携のキーパーソンとなって国づくりを担っていくことが見込まれる、様々な分野で活躍中の、ウズベキスタンの若い世代のリーダーたちとの意見交換の機会も設けます。また、日本ゆかりのナボイ劇場での和太鼓パフォーマンス公演視察(下記、枠内ご参照)、第二次大戦後にシベリアから移送され抑留中に亡くなった日本人の眠る墓地参拝と抑留者資料館訪問、さらにはこの5月から日本のテレビドラマ『カーネーション』の放送を始めているウズベキスタン国営テレビや日本語教育機関等の訪問も予定しています。

ぜひ貴紙・誌にご取材いただけますと幸いです。本件の詳細、ご取材については、担当者へお問い合わせください。

■第1弾:ウズベキスタン派遣 日程(予定)

8月2日(火) ウズベキスタン・タシケント着

8月3日(水) 文化人会議、テレビ局訪問 等

8月4日(木) 次世代リーダーとの意見交換会、日本語教育機関訪問

和太鼓パフォーマンス・グループ TAO 公演視察(於 ナボイ劇場) 等

8月5日(金) サマルカンド文化遺産保護・活用状況等視察、学校訪問 等

タシケント発

和太鼓パフォーマンス・グループ DRUM TAO 中央アジア初公演!

国際交流基金が主催し、世界 22 か国で 700 万人を動員してきた和太鼓パフォーマンス・グループ、TAO の中央アジア初公演をウズベキスタンの首都、タシケントで行い、文化交流ミッションもこれを視察します。

日本の伝統楽器を用いつつ、多彩なジャンルのメロディーと、ファッションやスポーツの要素まで取り入れた、既成概念に囚われない現代日本の総合エンターテインメントとして評判を呼んでいる TAO は、「世界で通用するエンターテインメント」を目指して 1993 年に愛知県で結成、1995 年からは大分県竹田市久住町に拠点を移して活動を続け、熊本地震の後は芸能・芸術を通じた復興にも取り組んでいます。また 2012 年からは、今回の中央アジア文化交流ミッションのメンバーの一人、コシノジュンコ氏とタッグを組み、モードとエンターテインメントを融合させ、更に新しい舞台づくりに挑戦中です。



会場となるナボイ劇場は、かつてソ連時代に日本人抑留者がその建設に携わり、1947 年に竣工したオペラハウスです。78,000 棟の建物が崩壊した 1966 年のタシケント大地震でも無傷で残り、市民の避難場所ともなったと言います。当時の日本人の礼儀正しく誠実な貢献と優れた働きがウズベキスタンでも高く評価され続けていることで知られる、日本とウズベキスタンを繋ぐ象徴的存在です。

昨秋、安倍総理夫妻が中央アジアを歴訪した際には、リニューアル・オープン直後だったナボイ劇場にてウズベキスタン音楽が披露されましたが、今回は日本の音楽・文化をウズベキスタンの人々に届けます。

本公演(8月4、5日)の詳細は追って国際交流基金ウェブサイト www.jpf.go.jp に掲載します。

<別紙-2>

中央アジアとの交流拡大に向けた国際交流基金の取り組み例

文化芸術交流

■ **テレビ番組交流**(2015年度～)

中央アジアの一般市民が楽しめる日本の優れたテレビ番組の放映を通じ、生きた日本文化・社会を広く紹介するため、ドラマ『カーネーション』(ウズベキスタン)、ドラマ『マルモのおきて』・アニメ『ハクシオン大魔王』(トルクメニスタン)をはじめ、ドラマ、アニメ、ドキュメンタリー、教育番組、地方紹介番組等を提供(予定含む)。テレビ番組制作スタッフ交流事業も予定。

■ **展覧会開催**(2016年度)

日本の伝統工芸をテーマとした「手仕事のかたち-伝統と手わざ」展(キルギス)、「現代日本の写真」展(タジキスタン)、日本の現代建築をテーマとした「パラレル・ニッポン-現代日本建築 1996～2006」展(トルクメニスタン)、若手作家による現代美術をテーマとした「未来への回路-日本の新世代アーティスト」展(ウズベキスタン)を各1か月程度開催し、幅広い日本文化を中央アジアに紹介。キルギス及びタジキスタンでは関連講演会も行う。

日本語教育

■ **JFにほんごネットワーク(通称:さくらネットワーク)拡大**(2015年度～)

2015年度中に、中央アジアの現「さくらネットワーク」メンバー4機関(ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス各日本人材開発センター日本語講座部門、カザフスタン国立大学)に加え、新たにウズベキスタン日本語教師会、キルギス日本語教師会、タジキスタン国立言語大学の3機関を同ネットワークメンバーとし、域内の日本語教育支援を拡充。

■ **日本語学習者招へい**(2016年4-5月)

中央アジア5か国から日本語を学習する学生計 102名を2回に分けて各2週間招へい。国際交流基金関西国際センターにて日本語基礎研修を実施するとともに、日本文化・社会事情視察、日本人や日本語を学ぶ域内の同世代同士との交流の機会を提供。

■ **日本語教材寄贈**(2015年度)

2015年10月の総理歴訪の機会に総理夫人から「昭恵文庫」を贈呈した中央アジア全5か国計6大学に対し、日本語教材 121点ずつを寄贈。また、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスの各日本人材開発センターにも寄贈。

■ **日本語専門家派遣**(2016年度～)

トルクメニスタン・アザディ名称世界言語大学に対し、日本語教育専門家1名及び指導助手1名の新規派遣を開始し、トルクメニスタンの日本語教育促進を支援。(ウズベキスタン、カザフスタン、キルギスには既に専門家を派遣中。)

知的交流・人的交流

■ **文化遺産シンポジウム開催**(2016年6月22日)

中央アジア5か国から専門家計 10名を招へいし、日本の専門家とともに、「ひもとく、つなぐ～中央アジアの文化遺産～」と題したテーマに、中央アジアと日本共通の課題である文化遺産の保護・活用に焦点を当てた国際シンポジウムを国際文化会館にて開催。

■ **武道団派遣**(2016年10-11月)

中央アジア各国で人気の高い、柔道、剣道、空手の選手団を派遣し、一般市民を対象とするデモンストレーションや現地専門家を対象とする指導等を実施。

●主催者・本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 企画部 事業戦略課 (担当:金子、大内)

Tel: 03-5369-6058 / E-mail: Miwa_Kaneko@jpf.go.jp, Momoko_Ouchi@jpf.go.jp

●取材に関するお問い合わせ: コミュニケーションセンター(担当:川久保、森)

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp